

団体名		事業名	交付予定額 (千円)	融資予定額 (千円)	金融機関	地域課題	事業概要	新規性・モデル性・公益性
1	岩手県 遠野市	持続可能なホップ農業と地域活性化を実現するクラフトビール醸造所整備事業	35,000 国費: 23,333 地方費: 11,667	65,000	岩手銀行 日本政策金融公庫	<ul style="list-style-type: none"> 栽培面積日本一のホップ生産地であるが、生産者の高齢化と後継者不足で栽培現場は危機に直面している。 官民一体となった未来のまちづくり「ビールの里構想」を掲げており、遠野産ホップの付加価値を高める新たな仕組みの開発が必要である。 ブランド強化や入込数増加のため、「ホップ・ビール」と「カッパ(妖怪)」をエントリーテーマとした観光推進基本計画を令和5年3月に策定した。 遊休施設をリノベーションし、新たな観光スポットづくりとして推進したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能なホップ農業と地域活性化を実現するため、遠野駅近くの物件をリノベーションし、地域資源であるホップや果物等を活用するクラフトビール醸造所を整備する。 醸造所の機能は、販売用ビールの醸造、醸造体験施設、試飲スペース、新品種ホップや醸造に関する分析、研究を行う。 新たな観光客誘致の起点となり、ホップ農業と地域の課題を解決し、更には地域経済循環型のモデルとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 駅前新たな観光拠点を整備することで、中心市街地の活性化が図られる。 新たな観光客誘致の拠点となり、観光入込数の増加に貢献できる。 ホップ農家は、農繁期以外にビール作りにも関わることが可能であり、ホップ農家としての仕事の魅力が強化され、新規就農者の誘致にも繋がる。 移住定住のきっかけとなり、空き家の活用が進んでいくことも期待される。
2	東京都 町田市	武相ブリュワリープロジェクト～地産地消のクラフトビールで地元飲食店と武相エリアを活性化！！～	23,756 国費: 11,878 地方費: 11,878	23,757	多摩信用金庫 日本政策金融公庫	<ul style="list-style-type: none"> 古くから「商都町田」と言われるほど商業が盛んな地域で、個性的で魅力的な小規模事業者が多く、その機動力を活かし、業種や分野を超えた事業者間の交流や連携によって様々な活動が生まれている。 コロナ禍で市内飲食店数は約21.3%減(2016年→2021年)。 近隣都市における商業施設の増加で飲食店顧客の市外流出や、全国チェーンの台頭で地元根差した飲食店の経営が厳しい。 市の人口が2024年をピークに減少局面と見込まれる中、現状に歯止めをかけるため、事業者連携を通じ、地域経済の好循環を生み出すことが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元を愛する飲食店を中心とした地域土着の企業10社がクラフトビール醸造所併設型のビアレストラン「武相ブリュワリー」を町田駅前に新設。 農商連携により、町田産ホップや大麦を一部使用した、町田産クラフトビールを醸造、販売。 地域産の食材も提供し、町田の食文化を向上、魅力発信。 	<ul style="list-style-type: none"> 町田の新たな名産品(町田産クラフトビール)の開発や販路拡大を通じ、来街者の増加につなげ、地域飲食店と街の活性化に貢献する。 雇用創出や、中心市街地の賑わい、シティブロモーションなど、地域経済の活性化につながる。 地域飲食店の繋がりの輪を掛け、中心市街地の環境美化向上に貢献する。 新たな乾杯文化を創出することで、人と人が交流する、町田愛(シビックプライド)を醸成する。
3	新潟県 佐渡市	佐渡島の特殊性の高い地域文化・食文化の振興事業	5,000 国費: 3,750 地方費: 1,250	5,000	第四北越銀行	<ul style="list-style-type: none"> 佐渡島は観光の過渡期を迎え「古い時代の観光からの脱却」「コロナ禍におけるダメージの回復」「飲食店・宿泊施設の拡充」を求められている。 佐渡島には独自の文化や食、自然があるにも関わらず、発信力の不足により、島外に伝わっていない。 今後より多くの観光客を受け入れる予定なのにも関わらず、飲食店・宿泊施設のサービス品質が伴っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特色を生かした食事とアクティビティを提供するレストランチェーンの先駆けとなる店舗を整備する。 地域産の食材を活用して製造した飲料・食品を複数の地域に跨り提供し、その地域の物語を統一のブランドで語り、消費者に届ける。 佐渡島の文化・食・自然に着目し、歴史やストーリーを語ることで食事を通じてそれを体験でき、地域のストーリーを持ち帰る仕掛け作りや新たな切り口の情報発信を行う。 製造した飲料・食品は佐渡島の各地域で楽しめ、持ち帰ることもできる。物語と美味しい食により、ロコミ効果を最大化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 埋もれた各地域の文化が再発見され、島内外の人々が佐渡島に目を向けるきっかけとなり、来島者数が増える。 佐渡島で生産される食材に、文化という情報が付与されることで、より付加価値が高まり、地域に循環するお金が増える。 来島者に伝わる情報量を増やし、サービス品質を向上させることで、リピーターが増える。
4	岐阜県 高山市	ジビエ処理加工による地域雇用、鳥獣捕獲技術担い手確保事業	31,800 国費: 15,900 地方費: 15,900	47,700	高山信用金庫 日本政策金融公庫	<ul style="list-style-type: none"> 2045年までの高齢化率は45.7%となっており、地域の消費衰退が顕著になる中、インターネットなどを媒体とした稼ぐ力を地域経済へ循環させる雇用の場が必要とされている。 捕獲技術者の約50%以上が60歳以上と高齢化が著しく、鳥獣被害を防止する捕獲技術者の技術継承、担い手確保が急務となっている。 捕獲者が高齢であるため、捕獲した鳥獣の埋設負担が原因で、捕獲を断念する場合があります、埋設負担軽減が望まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> 未利用であった野生鳥獣をジビエ精肉や加工品として出荷できる処理加工施設を整備し販売することで、稼ぐ力を地域経済へ循環させ新たな雇用の場を確保する。 通常雇用者の勤務時間を4時間とし、明るい時間に捕獲活動に従事できるよう時間を確保すると共に、捕獲技術の継承を行い、将来の担い手として育成し捕獲者を確保する。 従来、埋設処理していた野生鳥獣を利用することで、環境汚染を減少させ、高齢捕獲者の埋設負担を軽減する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の住民や、移住希望者を採用することで、雇用確保に繋がる。 雇用者を鳥獣捕獲技術の継承、担い手として育成することで担い手確保に繋がる。 埋設による環境汚染を軽減させ持続可能な経済循環と自然環境保全に繋がる。 捕獲した鳥獣をジビエ処理加工することで、活用することができ、捕獲作業者の埋設負担軽減に繋がる。
5	岡山県 高梁市	「風の通り道プロジェクト」～宇治農村公園の再生による地域経済循環創造事業～	25,000 国費: 16,666 地方費: 8,334	25,000	中国銀行	<ul style="list-style-type: none"> 対象地域では、これまでも地域活性化に向けて都市農村交流事業等に取り組んできたが、過疎・高齢化(高齢化率61%)の進行によって空き家や遊休施設、耕作放棄地の増加、森林の荒廃、コミュニティの衰退など、様々な課題に直面している。 高梁市を代表する観光地である「吹屋地区(日本遺産)」の観光客は増加傾向にあるものの、日帰り・通過型の観光地となっており、地域経済への波及効果を高めるために滞在型観光への移行が課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 遊休施設であった宇治農村公園を取得し、ログハウスをカフェを備えた一棟貸し宿泊施設にリノベーションして、地域の交流拠点に再生。 地域や地域内飲食店等を連携し、来訪者に対して、地域の食材を使用した飲食物や、里山・農業体験などの地域資源を活かした交流・体験型コンテンツを提供。 営利を追求しない社会福祉法人が主体となり、障がい者の就労支援(施設外就労含む)を兼ねて運営することで、取組の持続性を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな交流・体験の場の創出で、交流人口の増加、滞在型観光の推進が図られ、地域内消費額の増加により地域経済への波及が期待できる。 来訪者が地域に滞在し、地域の魅力や価値を体感することで、交流人口から関係人口への発展、最終的には移住・定住へとつながっていく。 事業を通じた障がい者の就労支援と併せ、来訪者との交流によって障がい者理解にも寄与する。また、地域住民と来訪者との交流によってシビックプライドの醸成が図られる。
6	香川県 小豆島町	歴史ある寺院の観光資源化及び小豆島ならではの子育て支援による地域活性化計画	9,960 国費: 6,640 地方費: 3,320	10,000	香川銀行	<ul style="list-style-type: none"> 小豆島町の人口減少を起因として、地域経済の縮小、地域産業の衰退、労働人口の減少、地域活力の低下といった課題が生じている。 「子育て・人づくり」や「つながり・交流」を強化して、観光振興や交流人口・関係人口を拡大することが重要事項となっている。 小豆島内に保育園やこども園等の子育て支援事業を展開しているだけでなく、観光資源になり得る寺院も有していることから、上記地域課題の解決に繋げられるリソースがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 小豆島八十八か所霊場清見寺敷地内の寮、蔵、事務所を改装して以下の事業を実施する。 ①惣菜製造販売 ・寮キッチンを改装して地域住民(保護者層及び檀家等高齢者世帯)向けに地元農産物を活用した総菜の製造販売を行う。 ②保育園留学サービス ・遊休事務所を改装して宿泊施設を整備し、県外の子育て世代等に保育園留学サービスを提供する。 ③寺カフェのオープン ・これまでは参拝客や観光客向けに不定期でテイクアウト専門カフェとして営業してきたが、寺や蔵を改装してイートインカフェを開始する 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの有用な資源を有する当地において、観光だけに留まらず、移住希望者のニーズに応じたまちづくりを行う点、また域外からの誘客だけでなく、地域住民もターゲットにした事業も合わせて行うことで、地域への流入促進と流出抑制を実現する。 本件は、周辺の商店や飲食店への集客効果も期待される。小豆島における主要観光地が多くある南側のエリアと、主要観光地である寒霞渓を繋ぐルート上にあるため、観光客が立ち寄りやすく、周辺地域一体での経済効果が期待される。